

府中市庁舎建設に関する市民説明会（第2回）【意見交換】

ア 設計者に求めること

【女性センター】

市民：銀行の窓口はカウンター式で、一人ずつ職員がついており、あまりオープンな場所は好まれない。窓口の形態は相談の内容によってローカウンターや仕切り付きのものなど異なるのではないか。

市：パブリック・コメント手続などでも窓口に関する意見をたくさんいただき、プライバシーの配慮など、考慮するところが多くあると考えている。

市民：市役所は通路が狭く、1階の西玄関から入ると通路に椅子があるため、車椅子が通れない。トイレもドアに引っかかるため入れない。複数の階で良いので車椅子の方も快適に利用できるトイレを設置してほしい。

市：たしかに現在の障害者福祉課と高齢者支援課の間の通路は狭く、人がすれ違う際にも不便を感じる時がある。西・東庁舎を繋ぐスロープも車椅子の方にとって急勾配となっており、付添いの方がいないと難しい状況である。

市民：入口に段差があるため、東玄関からも西玄関からも庁舎に入りづらい。

市民：エレベーターも1台だけでも車椅子が快適に乗れるものにしてほしい。

市：エレベーターの中に救急車のストレッチャーが中に入らない。

市民：現在の市の考えは障害者本人が手続に行くというのではなく、付添いの人が来る前提の仕組みになっている。

市：基本計画では、新庁舎にはユニバーサルデザインに関する機能として、府中市ユニバーサルデザインの5つの視点に基づいた、だれもが利用しやすい庁舎を目指すこととしている。

市民：ちゅうバスは障害者も乗れることになっているが、実際乗るには非常に乗りづらい。

市民：現在多くの自治体でJRの駅前が栄えているが、府中は京王線の駅前が一番栄えている。道路などの整備のバランスがとれていない。

市民：市役所周辺だけでなく、全体の発展を見据えてほしい。

市民：車椅子の方が利用できる駐車場はリフトゲートかスロープにするしかない。また、車から乗り降りするためには、車と同じ長さのスペースが必要なので考慮してほしい。

市：駐車場については、車椅子の方も安心して利用できるように、一定のスペースを確保してほしいという声もいただいている。

市民：基本計画の内容に関して、ハード面で何も悪いところはないと思う。

市民：豊島区の事例などを参考にし、職員の知恵を絞って日本で初めてと言わ

れるような庁舎を建ててほしい。

市：一方で、庁舎機能だけを入れたシンプルな庁舎にしてほしいというご意見もあるため、今後設計者が決まった後、これまでいただいたご意見を参考に検討していきたい。

市民：コンパクトな庁舎にして、地域と連携できる施設にしてほしい。文化センターにミニ市役所があれば、市民にとって使いやすくなる。

市民：子育てや福祉の相談は本庁に行かないとできない。中央にいない人からすると不便なので、もっと市全体を見て考えてほしい。

市民：議会の傍聴やネット中継など、市役所に行かなくても用が済ませるように将来的に必ずなると思う。

市：基本計画においても議場は市民に開かれた計画とすることとしている。

市民：説明会に参加する市民が少ない。説明会に来れない方や関心がない方をどう興味や関心を持ってもらえるかを考えていくべきである。

【府中市役所】

市民：今回のような市民説明会を頻繁に開いてもらいたい。市民と一緒に造っていく協働の姿勢が出てきて良かったと思うが、日常的に色んな意見を言えるツールを考えてほしい。その一つとして、議員が何を考えているか知るため、議会に申送りをして特別委員会の議事録を公開してほしい。

プロポーザルでは、案ではなく設計者を選ぶということで間違いないか。市民にとってはどういう設計者がやるかは重要な話なので、どういう風に市民が参加できるのかについても、スケジュールに入れてほしい。説明ではプレゼンテーションは公開とはなっていないので、設計者を選ぶ方法や理由をぜひ検討して丁寧に選んでほしい。

設計は市民と事業者が一緒に行うものである。府中市は市民という視点が全体的に欠落している。協働という言葉はたくさん出ているが、市民と一緒に進めていく必要があると思うので、市民との進め方をプロポーザルの条件にしてもらえると、市民も安心するのではないか。全国で色々な試みがされているので、ぜひ考えていただきたい。

市民は基本設計と実施設計にどういう風に関われるのか。市民の意見を全部反映することはできないが、斟酌しながら進めていくことが行政の役目だと思うので、丁寧な進め方をしてほしい。自宅を造るときに家族会議を開くことと同じである。

基本計画案は、他市でも当てはまるものになっている。切り口の違う意見があったが、将来の人口に対する考え方など題材を出してもらえないと

市民も意見が言えない。人口が減れば他の用途に使えるように考えていくなど、色んな考え方を盛り込むのが良いと思う。後に残る人達にこんなのを造ってどうしたのと言われないようにする責任があるので、そういう視点で今後進めてほしい。新庁舎建設後にこの場所や府中市がどう変わるかについては市民は全く見えていない。これから何十年も使っていくので、時代の趨勢を良く読み解いてほしい。まちづくりの拠点をつくるという言葉は良いが、今後その視点も含めた設計を行う設計者や案を選ぶように最大限努力してほしい。府中市を知らない設計者になれば金太郎飴的な庁舎になるのは仕方ないと思うが、府中市らしいプロポーザルや設計者を選ぶことを考えてほしい。学識経験者の意見や総務省、国土交通省の考え方を入れるというのは平均値なので、形成的な分析をして進めてほしい。

市：例えば日常的に意見をもらえる環境や仕組みとしては、ツイッターなどのことか。

市民：市ホームページで意見を投票できる、色んなところにはがきをおいて無料で意見を受付ける、窓口で口頭で受付けるなど色々あると思う。全部反映するのは不可能だが、今までのフラストレーションが溜まっている。

市：議会の特別委員会の議事録の話について、委員長が最後に中間報告を行っているのは知っているか。

市民：知っている。議会広報に小さく出るものではなく、どの議員がどういう意見を言っていて、委員会としてこういう結論になったというものを公開してほしい。他の自治体でも公開している流れだと思う。特別委員会全般に関することなので、議会事務局に申し送りしてほしい。

市：設計者の選定については、非常に重要な作業になると認識している。

市民：先ほど技術力や体制などの話があったが、何を造るかが重要である。設計者がどんなことを取り組んでくれるのか、市民とこういう風にしてやっていくというものが重要だと思う。そういうものを条件として出してやるべきである。府中市の基本計画などの行政計画が金太郎飴になっているのはそういうことだと思う。行政の皆さんの資質や考え方も期待している。

市民：設計者をまず選定するのか。それとも選定するときに建物のランドデザインを定義したうえで設計者を選ぶのか。設計者を選ぶときに市としてどのようなことを定義するのか。

市：設計者の選定方法についても、設計者を選ぶ選定委員会を設置して議論してもらおう。他自治体の事例では、ある程度イメージや設計者の考え方を併せたプレゼンテーションをしてもらうことが多く、設計者の目的や熱意などを確認しながら選んでいく方式が多いように思う。市の進め方としては選定委員会で良い方法を決めていく。

- 市民：どのようなものを提案してほしいかを予め市から言わないものなのか。
- 市：事前に募集をかける時にある程度の条件は提示することになる。当然、基本計画の考えに基づくことに加え、市民に対する説明や意見の取り入れ方を条件にするなど、オリジナルな条件が出てくると思っている。
- 市民：府中らしい個性ある新庁舎とはどういう意味か。
- 市民：府中を知らない設計者は分からないことになる。
- 市民：市や市議会としては府中らしい個性はどのようなイメージか。
- 市：今回基本計画を策定するに当たって、市民検討協議会や職員検討会において府中らしさについて色々議論してもらっている。職員検討会や市民検討協議会やその他でのご意見などをまとめると、基本計画13ページにある3つの軸に大体分けられるというところまで至っている。府中らしさはこれ、という具体的なものは今は出ていない。それを設計者に求めようとしている。
- 市民：大国魂神社や府中囃子などは新庁舎のどこに関係するものなのか。
- 市：あくまでも府中らしさのイメージである。これを庁舎に繋げるかどうかは設計者のアイデア次第で、設計者によっては祭りなんて関係ないと思うかもしれない。
- 市民：市民としては、まず総合的な面積や機能が必要であり、また、予算の面もある。たしかに金太郎飴では面白くないというのは分かるが、府中市の独特のものが市庁舎に必要なのか。市民の生活のうえでもっとも重要な仕事をすることが第一にあるはずだが、設計者を選ぶときにはこれに付随する条件がキーポイントになるのか。
- 市：たしかに庁舎は効率的に事務を行う場所で、それが市民サービスに繋がると思う。大国魂神社の隣で府中駅や府中本町駅の近くにあるため、建設場所を踏まえたイメージのデザインにするという意味での府中らしさも考えられると思う。
- 市民：府中市の現在持っている良い環境を損なわないという意味もあるのか。
- 市：もちろんそうである。
- 市民：そう言われれば分かる。お祭りと言われると、市役所にお金が十分あればいいが、そこまで言う必要があるのかと思う。
- 市：周辺環境に配慮しなければいけないということは別のところで述べている。
- 市民：その環境の意味としては、エコロジーとしての意味だと思う。
- 市：景観の部分も触れている。
- 市民：こう言ったら失礼だが、あまり漠然としたことを言われても設計者も困ると思う。

- 市：ただあまり絞りすぎてもアイデアを絞ってしまうこともある。
- 市民：それも分かるが、一番は機能的なものを造るべきであると思う。
- 市民：新たに取得する90%の土地は折り合いがついているとのことだが、広報特別号第2号に掲載されているA案の現敷地での建替えは実際にはないのではないかと。可能性はまだ残っているのか。
- 市：取得ができそうなところとしては全体の95%になっている。残りの5%はまだ交渉しているところである。いつ折り合いがつくか分からないが、95%で建替えはできると踏んで進めている。A案の可能性はない。
- 市民：新庁舎特別号で書いてあると、あたかもまだA案の可能性は残っている感じがする。全ての庁舎を建替えるということで決まりなのか。
- 市：全ての庁舎を建替える計画である。これは10案の中から選んだプロセスを説明しており、あえて載せている。
- 市民：建物の形状は決まっていませんとあるが、基本的にこの形になるのか。それが今のところ大体7階建てなのか。その経緯が今まで説明がなかったが、そういう状況のもとで今後設計が行われていくのか。
- 市：7階建てには決まっていない。敷地を拡張し全ての庁舎を建替えることは決まっているが、建物の形が口の字型ということは決まっていない。この時点では7階建てで検討しているということだったが、何階建てかは決まっていない。
- 市民：先ほどツイッターの話があったが、視覚障害者はパソコンを使っている人はいるが、非常に苦手な人が多い。パソコンは目で見て処理することを前提に作られている機械だと思う。最近は画面の文字を声で読み上げるソフトが作られ、それを入れれば画面が読むが、読む字と読まない字がある。読み方も横で1行ずつ読み上げるので、PDFなどで場所によって縦書き、横書き、表、写真がある画面を読ませると何がなんだか分からなく、結局意味を成さないことになってしまう。意見を徴収する際は、例えば、市役所や文化センターの窓口で市役所宛のはがきを置く、電話で意見を聞くなど、複数の方法を配慮してほしい。
- 市：電話によるご意見も随時受付けている。
- 市民：それを知らない方が多い。知らなければいけないことと同じことになるため、積極的にPRをお願いしたい。視覚障害者の福祉協会団体のなかではなるべく広めるように努力はしているが、市からも配慮をお願いしたい。
- 市：市から改めて団体や協会にもお知らせをする形ができるか検討したい。
- 市民：情報提供が少ないので議論のしようがない。早く情報を頻繁に出して、議論の材料を出してほしい。意見のある人は反対だと思う行政職員が多い

が、意見を言う人は一生懸命考えてくれていると受け止めるべきだと思う。今はそういう時代でもない。

市：ありがとうございます。

市民：設計段階では北西南は少し低く、東側を高くしてほしい。東側は大国魂神社だけなので、景観や日照の影響が一番少ない方角のはずである。できれば大国魂神社側に寄せて15階建てなどにしてもらえれば、近隣の住民は生活に一番影響がない。府中街道に面して正面という考え方で良いと思うので、直近に住んでいるものとしては北を低くしてもらいたい。設計者を選ぶときの市の一つの考え方として、基本計画に環境との共生に関する機能とあるが、緑だけでなく、隣地を含む敷地外を含めた環境との共生という、建物の近隣に住んでいる人が一番大事、人が一番大事だという考えを持ってほしい。

市：今回全面建替えで進めることになっているが、理由の一つとして、東側はあまり高いものは建てられないことが条件になっていることがある。

市民：建築法上か。何階建てくらいまで可能か。

市：そうである。現在8階建てだが、上層部分が既存不適格といい、違反建築ではないが、表現が合わないところがあり、それを適合化させなければならぬ。今は手元に資料はないが、ぎりぎり範囲内であれば東に寄せられることは把握しているので、そういう配慮は当然することができる。西側という話だが、同じような条件であるため、府中街道の北にあるもっと高い建物と同じくらいの建物はできる形となっている。

市民：敷地全体に10階くらいの建物か。

市：法的にはもっと大きく建てることできる。案では口の字型で7階建てのものがあるが、これには決まっている話ではなく、床面積としては概ね30,000㎡として何階建てになるのかについてはまだ分からないが、使える最大の容積率を全部使うわけではないという形が30,000㎡である

市民：建築法上から考えれば最大限これだけ建つ、という発想は住民からすると全然関係のない話で脅しにしか聞こえない。

市：条件としてはそうなっていることを説明している。

市民：我々からすると全然住民の声を聞く発想ではなく、厳しく聞こえる。

市：その条件の中で周辺環境に配慮するとしているので、それを条件に設計者の選定を進めていくことになる。

市民：違法ではないが規格外であることは初めて聞いた。もちろんそこも解消されなければならないのは分かるが、一番住民に影響の少ない建て方をしてほしい。直接的に影響あるのは北側だけなので、低層階で駐車場などス

ペースを十分にとり、東側を最大限大きくして南側に寄せれば、前が壁にならなくて済む。そういう設計を考えてほしい。

市民：現在スクリーンに映し出されている、パソコンで打っている文章は公開されるのか。

市：そのものは公開しないが、説明会でのやりとりは公開する。第1回説明会の分も既にホームページで公開している。

市民：大変良いことだと思う。建築に際して近隣に影響のないようにしてほしいという意見があったが、そもそも敷地に関して、残り5%の方が買収に応じなかったら計画はどうなるのか。前掛りになってはいけない。この状態でゴーサインを出してはだめ。出来ないと言われるに決まっている。

近隣に影響があるとすれば、あと2層3層地下を掘るか、分散化させても良い。ITの技術がどんどん発達すれば、分散している文化センター等が地域の拠点となれば、何も不都合ではなくなり、第二庁舎で本庁舎の機能がちゃんと果たせるようになる。そうなる前提のもとに、計画をしないといけな。近い将来も対応できないということであれば、50・100年はとんでもない話になる。

設計者の選定は、市民が審査員として観客席に座って1票ずつ投票すれば良い。市長も同じ1票だけを持って参加する。設計者に対する条件がしっかりしていないと何が出てくるか分からない。設計者は日本中にたくさんいる。府中らしさを心配しているようだが、地球の反対側でちゃんと考えている人がいる。

市民：府中市は1960年代頃までは湧き水があったと聞いている。整備方針に防災・災害復興拠点機能とあるが、あまり費用がかかかなければ、新庁舎の敷地内に井戸を掘り、地震などで断水した時に市民が使える井戸を掘ってほしい。

市：自立型、近隣や市民への配慮、業務の継続性という面でも他で聞いたこともあるので、検討を進めていきたい。

市民：残り5%の土地が取得できなかった場合はどうするのか。5%の部分だけ外して建物を建てるのか。

市：そうなるが、残りの5%を諦めているわけではなく、将来においても庁舎の敷地としていきたいと考えている。

市民：将来と言っても建物を建てる時に5%の人が残っていれば、形が変わってくるのではないか。その場合はC案というのが出てくるのか。

市：B案の敷地の95%ということで、B案の形になるよう目指していく。

市民：北庁舎と東庁舎を残す案はもうありえないのか。

市：敷地を拡張して全ての庁舎を建替える方向で進める。

市民：仮庁舎を造らない場合はありえないのか。

市：この時は造る方向で検討していたが、造らない方法もなくはないと考えている。設計者のノウハウや経験などを提案いただき、そういうことが提案できる設計者を選ぶ形にしたい。

市民：既已取得した土地で既に1件建物の取り壊しが行われた。それ以外はいつから取り壊し作業が始まるのか。

市：知りえた段階でお話していきたいと思っている。

市民：残っているのはマンション風の賃貸住宅のようなものは大きい。取り壊しに結構な期間がかかるのではないか。

市：大小ではないと考えている。期間はかかると思う。

市民：住民としては予めそこも把握しておかないと、またいきなり始まって騒音とかすごくなると思うので配慮してほしい。

市：事前にお知らせするという事でお約束させていただきたい。

市民：市庁舎の取り壊しも期間や騒音、埃など環境がすごく悪化する。事前にできるだけ早く話してほしい。

市：方針が決定したら、できるだけ早い段階で説明の機会を設けたいと思う。

市民：75億円を基金で貯めるということで、現在50億は貯まりあともう少し貯めるとのことだが、75億まではいかないと思う。

市：平成29年度までに75億貯めるという計画で現在進んでいる。

市民：残り借金が100億くらいになるのか。

市：残りの100億を借金するかどうかはまだ決まっていない。他の方法としては、貯める額をもう少し増やす計画にするということもある。

市民：そんなに余裕はあるのか。

市：市政の財務状況を見ながら決定していくことになるため、基金をさらに貯めるとか、借金を増やすなどはこの場では言えない状況である。

市民：その借金は何年間で返還するのか。

市：基本的には各自治体が民間や東京都に借りる場合は、大体20年かけて返すのが一般的である。

市民：金利はいくらか。

市：金利はそのときによって変わってくる。

市民：現在はいくらか。

市：申し訳ないが、この場では現在の金利は分からない。民間のほうが安かったり、東京都から借りるほうが安かったりもするが、東京都から借りるとなると条件があるため借りられない場合もあるため、そこも見極めていく必要がある。

市民：今府中市はどれくらい借金があるのか。

市：調べての後ほどお答えする。ただ、借金で事業をする場合に市のルールとして、市の財政状況を見て、全体の支出のうち、借金返済の割合が10%を越えないようにするというルールがあり、それをずっと守っているところである。

市民：平成29年度までに75億円を貯めるというのはにわかに信じられないが、財政に余裕があり100億近い借金をしても十分返せるという目途が立っているから、全面建替えという話になったと思うが、ほんとに大丈夫なのか。借金が今いくらなのか答えられない状況で、全体の市の財政がどうなっているのか、これから平成29年度までに25億円くらい貯められるのであれば、100億くらいの借金は私は返せると思う。財政が苦しいときに全ての庁舎を建替えるのは、どこでどういう風に決定されたのか。色々な角度から検討したのか。

市：改修の方が安い、または、目先のお金は安いけど維持管理がかさんでしまうなど、色々な視点から協議をして全面建替えを選んでいる。

市民：市長は府中の財政は非常に厳しく、競艇場から収入もほとんどないなど、厳しいことを書いている。その状況でこれを行うのか。

市：第6次府中市総合計画という全体的な市の最上位計画で、市民の皆さんと今後8年間どのように取り組んでいくかという計画を立てているが、重点プロジェクトの1つとして、庁舎の建替えを進めていく形にしている。

市民：金利などが増えることを考えただけでも、今までより10億円くらい増えるのではないかと。10年20年先の話は自分達には関係ないと思われても困る。

市：東京オリンピックの開催が決まるなど、計画の途中で色々な社会情勢が変わっていくという意見もたくさんいただいております、状況を色々勘案しながらその都度良い形を検討していかなければならないと思っています。

市民：実際蓋を開けてみたら200億円を越えていたということになったら、あとは借金をして市民が借金を返すしかない。公務員の給料を減らすわけではないだろう。

市：サービスも質も落とさないために基金と起債を考えている。

先ほどの借金の話だが、平成26年度の予算では、借入残高が413億円で、市民1人あたりにすると20万円弱になる。26市で比べると、市民1人当たりの借入残高が21番目となる。

市民：今までは豊かだったので良かったが、これからはそうではなく一気に上がると思う。

市：そこは財政の専門の部署がしっかりと計画を立てていくことになる。

市民：人口推計は平成42年まででは30年間を見るべきである。おそらくここから急激に落ちるはずで、平成42年であえて切っているのが意図的に見える。財源も終わって見たら300億円ということもなくはないので、それを残った市民がどう負担するという問題をもっと市民に考えさせたほうが良い。住民サービスを充実させるというおいしい部分ばかり見せるのではなくて、覚悟をしなければならない。次回の説明時には、15年間延ばして平成47年までの人口統計を見せてほしい。

B案の図を見ると、北庁舎の北の道路より南を全部買収して敷地拡張するという理解で良いか。

市：そうである。

市民：5階建てのマンションや2階建ての家などがあるが、そのうちの残されたのが5%ということか。

市：具体的な場所はプライバシーもあるが、全体のなかでの5%が今交渉中ということである。

市民：市側としてはその敷地も含めて円満に買収したいということか。

市：そうである。

市民：現庁舎から平米数が相当大きくなると思うが、現庁舎はどれくらいの広さか。

市：約20,000㎡である。事務所が分散しているため、第二庁舎の機能も統合させることになる。

市民：すごい建物になる。機能的でシンプルな庁舎という意見が出たが、本当にそれほど必要なのか再度議員に議論してもらいたい。集めれば集めるほど東部など周辺の方は不便になるので、それが本当に住民サービスになるのかを含めて考えてほしい。

市民：どこかの庁舎、都庁と競争しているのではないか。でかすぎる。30,000㎡の根拠をもう少し明らかにすべきである。ランニングコストも当然必要になるので、建築費は上がる。若い世代の借金にするというのは、もう一度議論しなおす必要があると思う。

市：効率的な事務を行える庁舎とするため、手狭なところや無駄なところの調査、全職員へのアンケートや文書削減など、現在色々調査を行っている。少しずつ職員の意識を変えていき、無駄をなくそうと考えているので、無駄な床をたくさん作りたいとは考えていない。できるだけ効率の良いシンプルなところを目指して、延べ床面積ももう少し見極めていきたいと考えている。

【生涯学習センター】

市民：基本方針に市民交流を支えるための空間を提供するとあるが、市民交流の場は市役所でなくても、文化センターや公園など他の施設に色々ある。そもそも市役所の職員が交流していない。市役所に相談に行くと、私の係ではありません、あそこの課へ行ってください、となり話はまとまらない。相談受付窓口をもっと万能なものにし、受けた職員が責任を持って関連部署を全部回り、相談者に回答するようにしてほしい。

市：職員自体の意識もあるが、職員間のコミュニケーションにも繋がってくるかと思う。現在の執務環境だと職員間のコミュニケーションが取りにくいということもあり、そういう課題は職員でも感じている。

市民：上司はちゃんとそこをわきまえて、自分達の役割を認識してほしい。上司がやると部下が延びないという言い方をされるが、政策課は一番頭の良い人が集まっているはずなので、担当でなくても一生懸命やってほしい。

市：責任を持って行いたい。

市民：そこを考えるのは市長であり、それを職員達にやらせるのが仕事である。市長に仕事をもらったら全部やりなさい。

市：そういうことを意識してやっていくということか。

市民：市民をいじめるようなことをしないでほしい。法律はたくさん作っても良いが、どうやって守らせるのかを考えるのが仕事である。

市：一生懸命考えていきたい。

市民：もうずっと30年くらい考えている。そうなると定年になる。

市：庁舎を建替えれば職員の意識が変わって、全て解決できるようになるわけではない。

市民：庁舎を建替える際に窓口名や割振りを考えれば、規模は変わってくる。

市：現在は組織変更にも対応しにくい設えになっている。

市民：だからそれを変えなければいけないという意見を今聞いたのだから、今日帰ったら上司と相談しなさい。そしたら職員は上司にはものが言えないという言い方をする。

市：できるだけ検討していきたい。

市民：検討してもう30年になる。今までずっと考えている。市長の手紙の返答も考えている。何も説明しないでご理解くださいという返事が来た。

市：庁舎の建替えをきっかけにそこも促進できるようにしていきたい。

市民：建物を設計する前に、庁舎機能は市民との関わりでどういう風に成立しているか、システム設定をまず行わないと庁舎の機能が果たせない。建物ができることが目的ではない。例えば、最近の税務署は申告に行かなくても電子的にできてしまう。電子自治体という考え方も一時期流行ったが、

これだけ情報化が進んで端末の機能が発達してきているので、市民が庁舎に行かなくてもできる機能は可能な限り手元で行えることを考えたうえで、建物の設計をしてほしい。設計者は最初に、庁舎機能の中身と展開方法を考えてから建物を設計してほしい。

市：マイナンバー制度がこれから動き出すため、IT化やICT化などが出てくると思うが、現在の庁舎は老朽化しているため、新しいシステムを入れるという機能更新に耐えられない。一方で先ほど言われたような機能とシステムを作っていくことも当然進めながら、新庁舎について考えていきたい。

市民：設計者は、建物が必要だと言われたから造ったではだめである。自治体の機能をしっかり理解している人でないといけない。選定するとき条件として考えてほしい。

市：箱を造れば良いということではないということだと思うが、それについては考えている。

市民：庁舎機能を解析して、電子的に展開できる機能を考えることができる力があるかについても、しっかり頭に入れてやってほしい。

市民：市民の立場としてお願いしたいが、設計者とは市民は直接は話すことができないので、市庁舎は色んな目的で建てると思うが、最終的には、市民が使いやすい建物を造ることが目的だと思う。これだけ皆の貴重な意見をまとめて時間をかけているのだから、これまでの市民の声を設計者に音でも何でも良いので包み隠さず渡してほしい。生の声を聞いて、市民がこういう要望をしているということを入れて設計してほしいと思う。

市：それをしっかり伝えていくことが自分らの役目だと思う。

市民：177億円のお金を使って結果的に良い建物ができたと市民が喜んでくれれば、気持ちは変わってくる。絶対そうすべきだし、そうしてほしいという切なる願いがある。

【府中市役所】(聴覚障害者向け)

市民：府中駅と府中本町駅のにぎわいとあるが、駅から庁舎までの入口を同じレベルにすれば車椅子の方なども階段昇り降りをしなくて済む。

市：今回は庁舎の建替えだが、周辺道路についての話も他の方からのご意見もいただいている。

市民：車優先というよりも人を優先にしてほしい。

市：歩行者にも優しくという形だと思う。交通バリアフリーという話もある。

市民：建物の中を明るくしてほしい。何を言っているのか分からないので、電

車と同じような電光掲示板がどこからでも見れるようにしてほしい。

市民：危ないことがあった際に、モニターで見ればなにか起きたということが分かるのでぜひそうしてほしい。

市：光でフラッシュライトという形か。

市民：光で逃げ道などの方向を知らせて、どこに行けば良いか分かるようにしてくれれば良い。

字幕付きの情報を出して、例えば、地震が起きたときに、安全な場所に避難してくださいというものが出ると良い。

市：甲府市役所では、災害時に情報を発信する電光掲示板が設置されている。

市民：オープンフロアになっても市役所が縦割りだと意味がない。手続きをする際に利用者の移動が少ない方法を考えてほしい。たらい回しにされてしまう。

市：窓口のあり方についても、設計を進めるなかで考えていきたい。

市民：災害時に聾者が分かるように、パトライトのようなものや匂いで分かるようなものがあると以前説明したが、そういうものを入れる可能性はあるか。

市：ユニバーサルデザインの中でも少し配慮した形で検討していきたい。

市民：地震があった場合、各地域でどういう風になっているか情報を知りたい人は多いと思う。聞こえる人は電話ができ把握できるが、聞こえない人はモニターを見て、自分の地域の状況が分かるように各地域の情報を出すモニターがあると良い。

市：他の庁舎では、災害時にモニターなどにNHKでの緊急放送を流すところはあろうである。

市民：府中市の各場所の情報が見て分かるようにしてほしい。

市民：災害が起きたときに支援が必要な方を集めるスペースをつくってほしいと考えているが、聞こえない人達の場合は情報弱者なので、モニターなどによる支援体制を作してほしい。

市：モニターで見て分かりやすいものは求められていると感じているので、設計者にも伝えながら、皆さんのご意見をできるだけ反映していきたい。

市民：耳が聞こえない方が避難所にいる場合に、その支援に限界がある場合は、拠点である市役所に集まる方法を実現してほしいと思う。

市民：障害者の情報を府中市で共有して、新庁舎に活かしてほしい。聞こえないので、建物を開放していることにも気が付かない。

市：市役所は災害時の情報を発信する拠点になると考えているが、残念ながら避難所としては機能しないため、各避難所へ大切な情報を送る発信拠点

としてしっかりと情報を伝えていきたいとは考えている。

市民：無線やWi-Fiなどがあれば、府中市役所に行かないと分からない情報も送ってもらえると思うので考えてほしい。どこにいても情報がもらえる。

市：Wi-Fiについては、基本計画にもあるように検討していきたい。

市民：エレベーターは音声によるアナウンスが多く、ボタンやベルを押すときも音声での反応が多く、本当に困っている。その辺を考えてほしい。

市：色々な方々に分かりやすいユニバーサルデザインの観点で考えていければと思う。

市民：エレベーターには窓があって中と外の様子が把握でき、トラブルがあった時はランプが点滅するなど、光で分かるようにしてほしい。そうすればエレベーターの中で何か起きたと分かるし、聞こえない人が何か危ないと思ったときにボタンを押せば、周りの人が気づいてもらえる。

市：最近のエレベーターは窓をつけるようになっているため、新庁舎でも窓はつくと思う。また、モニターがついていて、警備員とやりとりができるシステムもあるようなので、そういうものも検討していきたい。

市民：グリーンプラザのようなエレベーターが良い。

イ サイン案内表示について

【女性センター】

市民：高齢者はサインだけでは分からないことが多いため、必ず人による案内も必要である。

市：最近では総合案内人としてコンシェルジュを置く市役所が多く、案内人が最後まで案内できれば理想だが難しいところがあるため、効果的なサイン表示も検討する必要があると考えている。

市民：床の色分けで誘導するところが増えている。番号表示だけだと分かりづらいことも多い。

市：床を使ったサイン表示は確かに導入している自治体もある。

【府中市役所】

市民：職員で検討していることは、日常的に悩んだり感じたりしていることの蓄積なので非常に良いことだと思うが、これではサインは上手くいかない。建物全体のグラフィックとサインは切っても切り離せない話で、海外を含め日本にも世界的に有名な人がたくさんいるので、そういう人を設計者として一緒に入るようなチームを組んでください、という条件を作れば全く問題なくできると思う。こういう与条件を作らないと、金太郎飴になる。行政マンの心意気、感性を期待している。

市：非常に参考になる。

市民：府中らしさは、大国魂神社に関連するものだけでなく、もう少し違うものが生まれてくる可能性があるのも、もっとそういう姿勢で取り組めば良いと思う。

市：基本計画においても市民の皆さんからサインについてもご意見をたくさんいただいたので、職員でも検討しているところである。

市民：サインはそれなりの効果はあると思うが、大きなところだとあまり期待できない。さっきの説明のなかでは案内人や受付の方についての話がなかったが、一番大きい。自分はまず案内は見ないで受付の人に聞いてしまう。

市：案内人、コンシェルジュについては基本計画に記載しているが、現庁舎では西玄関と東玄関に配置している。コンシェルジュを配置して欲しいという声はあるが、行きたい部署まで付いてきてくれるわけではないので、その先の目的の課に行ってくださいというだけではなく、番号や色などで案内をした方が分かりやすいのではないかと、というご意見はあった。

市民：コンシェルジュは良いが、立川市や町田市、武蔵野市のように積極的に出てきて、ちょっと立っていたら寄ってくるような形が良い。他の自治体

の良い所は職員課に言ってほしい。今の庁舎で言えば、おもてなしやサービスが相当欠落している。コンシェルジュ方式をやるのであれば、もっとやるべきである。今の現庁舎でも改良してほしい。そういうことを含めてサインをどういう風にするか、職員の日常的な悩みはこれから作るに当たりとても参考になる。できるものは今の庁舎でも改善してほしい。ぜひ職員課と協力してほしい。

市民：椅子に座っておはようとあいさつされても、返事をしないのは府中だけである。

市：それはまた別の問題になる。

市民：別の問題できりがないかもしれないが、市民がそういうものだと思っているから何も言っていない。せつかく考えるのであれば、今改善すべきことも含めて勉強してほしい。月曜日に言ってほしい。

市：一方で案内人には聞きたくないという人もいるみたいである。

市民：それがまさしくコンシェルジュということだと思う。

市民：サインには色々な方法があるが、床を使えば良い。床に青いラインと赤いラインを引けば良い。

敷地の話だが、見切り発車でやってしまっている。絶対にこの敷地でやりたいというのであれば、2段構えで行えば良い。1期工事、2期工事、取得できたときの状態を予め示しておけば良い。そうすれば財政が苦しくなっても困ることはない。計画的に2期は5年後に控えるなどすべき。一度にやるからダメになる。

市民：財源については基本的には基金と起債で賄うというところで、基本的にとという言葉を使用しており、絶対この方法でやるという言葉ではないので、財政が厳しいなか強引にやられてしまう気もする。

市：表に出ている起債については基本的にとということがあるが、これから起債について財政当局と話を進めてどうするのかを決めていくところでもあるため、その都度決まった時点で市民の皆さんに話をすることになる。心配されていることについても、情報を共有して検討していきたいと思う。

市民：市民感覚としてはちょっと怪しいなと思ってしまう。

市：絶対にとというのはなかなか書くのはどうかというところがある。ご意見として伝えていきたい。

市民：自分も長い間サラリーマンやってきたが、オリンピックが終わっても不透明な情勢であるから、一度に造ると後戻りできないので段階的にやっていこうというのが普通である。市役所は潰れることがないから、という考え方はないとは思いますが、結局は市民の借金でそれを返さないといけない。今度第3回の説明会があると思うが、今回の意見がどれだけ反映されたの

かが分かるようにしてほしい。前回と変わっていないということになれば、これだけ3時間以上も集まって色んな意見を聞いたのに、結局ガス抜きだったと思われても仕方ない。議事録が出来ているのだから、これは良い、これについては難しい、というようにポイントとなる項目については、対応結果などを伝えるべきである。全部内堀が埋められていて、結局いくら意見言っただって、何も変わらないという虚しさを感じる。既に終わっているが、市民の意見を聞いておかないと後で色々言われるから、今回開催したと思われても仕方ない。

市：どういう風に反映していったのかというプロセスをとということか。

市民：出た意見を100%実現できている市民もいないと思うが、お金のことを一生懸命心配しているなか、現庁舎を使いながら建替えをする条件を設定しているところもたくさんある。お金がないから現庁舎を使いながら建替えを行い、仮設庁舎の6億円を抑えたいなどの意志がよく見えない。条件として、仮設庁舎を作らない案や、将来的に1期2期と分けて考える合理的な案を設定するようなものがないと、良いものがあればそれを採用するというと、府中市の意志、府中らしさは全くないのではと誰でも思ってしまう。

オープンスペースについて、プランや進め方をはっきり示さないと、府中市はおまかせで良いのかということになる。そういう風にしか見えない。

市民：それはあなた達職員が頑張りすぎである。我々は皆さんの意見を聞いて調整役をする、電話で良いから何でも意見くださいという姿勢がなければいけない。今からでも遅くないので、大いにそれを広報などで周知して認知させなければいけない。

市：広報にも記載させていただいているが、なかなか難しい。

市民：何回もどこでも周知しなければ相手に届かない。意見が来れば、市民が考えているものが分かり、設計者を選ぶときに、必要とするスペックが言える。

市：参考にさせていただき、反映していきたいと考えている。

市民：柔軟にやらないと、それでは何も変わらない。せっかくのチャンスだからやり尽くさない。こんな経験はそうはできない。

【生涯学習センター】

市民：設計者は公募するのか。予め何社か選定するのか。

市：公募で行う。通常公募という形が一般的だと思う。

市民：庁舎の大きな機能として市議会があると思うが、市議会は庁舎の中に入

るのか。

市：延床面積の中では庁舎に入れる予定で考えている。

市民：今回基本計画が決まったときに、議員の皆さんが決めたと言っているが、議会に行ったときに、自分達の地元の議員がどんなことをやっているのかがよく分かるような議員のコーナーがあると良い。もっと積極的に知らせるような場所がほしい。議員は市民の代表なので、議員さんが何をしているのかが一番大事なことなので、市役所に行き、パネルなどでボタンを押せば公約や議案が出て、内容が分かるような案内をしてほしい。

市：誤解があるといけませんが、市議会からは承認をもらい、実際決めたのは市である。市が考え方を決め、市長をはじめトップの人達が集まるところで決定をしたうえで、市議会にも報告し了承を得ている状況である。

市民：保留しなさいと議会が決定すれば、こうならなかったということだと思うので、この議案に対してこの議員が了承したとかしなかったとかが分かるようにしてほしい。

市：基本計画の中でも開かれた議場にする事としてしている。

市民：議会改革をしっかりと体现できる庁舎の表示機能であってほしい。

市：案内や設えを設計のところでは具体化していきたい。

市民：現在の議会のように奥まったところにするのではなく、もっと議員がオープンスペースでわいわいやっているのが分かるような議会にしてほしい。そうすればもっと親近感が湧くと思う。

市民：サインについて、いくら工夫しても100%の人に理解してもらうのは難しいと思うので、コンシェルジュなどのヒューマンインターフェースという部分も工夫してもらいたい。

市：基本計画を策定する際にもご意見をいただいております、コンシェルジュの方が付いて回ることができれば一番良いがそれはできない。そうした時に、なに課に行ってくださいと案内するよりは、説明する側もされる側も、10番に行ってくださいと言ったほうが分かりやすいというご意見がある。

市民：案内板や表示は目の見えない方からは見えにくいということがあるが、実際の看板やプレート、点字ブロックなどを導入する際に、障害者自身の使い心地について障害者に意見を聴く機会などを設けてほしい。

市：検討していきたいと思う。

市民：学識経験者だけで検討を進めた自治体に行くと使いづらいことも多くあるので、意見を取り入れてほしい。

市民：外国語表示で英語が一番多いというのが理解できないが、中国人が多いのであれば、中国語や韓国語と一緒にやるべきなのではないかと思う。

市：中国人が1,400人くらいで、英語圏の方のほうが多いと思うが、人数だけではないようである。

市民：今はやはり中国語や韓国語は大体併記をされている。英語だけでは足りない気がする。

聴覚障害者のために、手話をできる人を最低限フロアや課に配置をする。表示そのものだけでなく、その配慮も必要なのではないか。

部署名ではなく内容というのは賛成だが、それは明日からでもできる。とりあえず表示は張り紙で構わないので、変えられることはすぐに明日から変えていけば良い。新庁舎ではちゃんとしたものにしてほしいが、ぜひ今の段階でもやってもらいたい。

市：第1回の市民説明会の際に、要望があって聴覚障害者団体の方との意見交換をしている。手話の配置や他にも具体的な意見も多く出ているので、その取組も進めていきたいと思っている。また、現在できることも考えていきたい。

市民：現在東庁舎に入ると、最初に見えるのは銀行である。印鑑証明をもらうにも座るところが足りない状態で、あのスペースが必要なのか。スペースを最小限に抑えてほしい。

基本計画に書いていないが、現庁舎には食堂や銀行、組合があるが、新庁舎ではどう対応するのか。

市：銀行前のスペースについては、あまり効率が良くないこともあるので、市民の動線等も考えながら、色んな部署の配置を考えていきたい。また食堂などについても、必要な面積がどれくらいかを検証しているところで、食堂については本当に必要なのかというところから考えていきたい。配置も含めて今後設計を進めるなかで考えていく。

市民：組合がある5階には待ち合いの椅子はいくつあるのか。

市：少ない。

市民：お金をかけてあんなスペースを取る必要があるのか。そのお金で現在のアパートのどれくらいの広さを取れるか。座るスペースについて、体の悪い方、お年寄りの方もいるのに全然対応が悪いと思う。

市：改善していきたいと思う。

市民：毎年ゴミのカレンダーを配る人が家の敷地の中に入ってくる。府中市と書いてあるベストを着せてくれとお願いしたが、できませんという回答で終わりだった。

街路灯の電球はどれくらい経つと取り替えてくれるのか。耐震を考えれば必要なかもしれないが、現在のこともできないのに新庁舎建設というのはどうなのかと思う。

市：反映するために各課に共有していきたい。

市民：4月に小中学校に新入生が入ると思うが、木が植えてあるのは綺麗で良いが、手入れしないために2メートルくらいまで伸びてしまい、府中市で色んな犯罪が起きてもおかしくない状況だと思う。このところ犯罪が少しなくなってきたとは思いますが、犯罪を誘発するような木は植えないほうが良い。子どもがまた犠牲になるだけだと思う。

市：そちらも共有していきたい。

市民：金がないからできない。予算ないということになると思う。

【府中市役所】(聴覚障害者向け)

市民：会議室の数を増やせるように設計者をお願いしてほしい。倉庫が足りないと聞いており、手話講習会の会場がなくなってしまうため、市役所でできるように会議室の数を増やしてほしい。他の市民も必要になると思う。

市：現在、府中駅前に建てているビルの5階6階に市の施設が入り、市民活動の拠点としての機能を持つため、そこと庁舎の役割を明確にして会議室についても考えていきたい。

市民：サインは文字が大きく、明るくなることは良いが、色分けも考えたほうが良い。子どもやお年寄りにとっても分かりやすくなる。

市民：1階は赤、2階は青など、何階にいるか色で分かるように、案内板にも同じ色を表記すれば分かりやすくなると思う。

市：職員からもそういった意見が出ている。

市民：案内は文字ばかりにこだわっているかなと思う。手話も良いと思っていて、文字が苦手な方のために、タッチパネルを触れば手話の通訳が出てくるようにしてほしい。

市：動画のようなものか。

市民：聞こえない人は文字が分かりにくい人が多いと思うので、ボタンを押せば手話が出てくるものにしてほしい。また、手話通訳者の呼び出しボタンをつけてほしい。混み合っている時に、予約ができるようにしてほしい。

市民：金曜日に手話通訳者が待機しているが、聾者はたまにおしゃべりが長くなる時があり、通訳の仕事が終わったのに他の聾者にばったり出会って立ち話をしていると時間ももったいないので、コーヒーなどを飲みながら話ができる明るい部屋があったら良い。コーヒーは自販機ではなく注文して出てくるような、高齢者などもみんな話ができる場があると良い。

市：憩いの場のような感じだと思う。そういうご意見もあるので考えていきたい。

市民：駅から市役所までの案内も分かりやすくしてほしい。

市：市役所から外のことについてもということか。

市民：引っ越してきたときに方向が分からなかった。駅を出てから市役所までの案内を矢印で表記してほしい。また、府中本町駅から競馬場までのような雨の日にも濡れないように屋根をつけてほしい。

市：先ほどのレベルを同じにという話と共通しているかと思うが、関連部署には話をしておきたい。

市民：毎日金曜日に手話通訳者がいるが、それだけではなく、市役所に通訳者が待機して、開庁時間にボタンを押せば来てくれるようにしてほしい。府中市役所に実際に通訳者を配置しなくても、ネットワークなどを使ってモニターで表示することもできると思う。いずれも手話通訳者は、市内の通訳者に担当してほしい。そうすれば手話通訳者の技術があがると思う。

市：そうすれば市役所に気軽に来やすい、相談しやすい形になるか。

市民：そうである。ぜひ考えてほしい。筆談が苦手な人もいるので、手話があると助かる。

ウ オープンスペースの活用について

【女性センター】

市民：市役所は災害時に避難所になるのか。

市：災害時には庁舎は災害対策の拠点となるため、避難所にはならない。

市民：避難所にはならないのであれば、中途半端なオープンスペースはいらないのではないか。

市民：隣に大国魂神社があるので、お祭り時などに庁舎のスペースが利用できると良いのではないか。神社と庁舎をうまく抱きあわせられるように計画できれば良い。

市民：府中街道側にオープンスペースをつくって、神社側に建物を寄せる方法はどうか。

市：神社側には建物を建てる際に一定の高さ制限がある。

市民：ルミエールや学習センターにもオープンスペースあるが、印象に残るようなものはない。1階フロアの使い方は非常に難しい。

市民：市役所は仕事をする場所なので、オープンスペースが必要なのか疑問である。空間は必ずできるので、部署配置とともに検討していく必要がある。

市：今後、業務や職員数の増減により、将来的に必要なスペースが変わってくることもあるため、将来に渡ってフレキシブルに対応できる造りにする必要があると考えている。

市民：利用頻度が高い部署を1階にしてほしい。空間の利用はそれほど神経質に考える必要があるのか。

市：基本計画でも低層階に利用頻度の高い窓口機能などを置くこととしており、これまでも、福祉や窓口関係など市民が多く利用する部署や、上の階にあると不便な部署については、低い階に配置してほしいとの意見をいただいている。

市民：市役所で縁日できるようなスペースは必要ないのではないか。主要目的をまず考えて検討すべきである。

市民：市役所は機能を多く持つもので、欧米では役所前は広場になっている。

市：新庁舎に入れる機能は、設計者と協議しながら検討していきたい。

市民：市は中心地に車を集めているので、分散させていくべきである。

市民：市民のニーズをどう受け止めていくかを考えて、市民と話し合い、理解してもらえる手立てを考えながら進めてほしい。

市：パブリック・コメント手続や今回の説明会でも色々なご意見をいただいたので、設計者にしっかりと伝え、具体的に反映できるものについては考えていきたい。

【府中市役所】

市民：まるごと府中にはいつも防災危機管理課の職員が出て災害時に役に立つ話をしてくれるが、まるごと府中を見ている市民は限られてくると思う。

新庁舎では、オープンスペースなどを使って、例えば月に1回休日に、防災危機管理課や府中消防署の職員による講演や実演、啓発活動など、市民が体験できて災害時にすぐに役に立つことを教えてほしい。

市：マンホールトイレを設置しているような自治体もあると思うが、そういう活用のことか。

市民：多摩川でよく訓練を行っていると思うが、広い場所を使うのではなく、オープンスペースを使って、例えば避難所などの区切りの壁や、非常用トイレの組み立て方など、非常時にすぐに役立つものを市民が体験をしたり、実験を見たりできることをやってほしいと思う。

市：まさしく市民の参加によるということになると思う。

市民：実際に地震が起きたときではなく、予防のために広報活動として、防災危機管理課と府中消防署の協働でやってほしい。

市：基本計画の市民検討協議会でも、市の避難訓練に市民も一緒に参加したらどうかという意見もいただいているので、通じるところがあると思う。

市民：最近引っ越してきた方には自治会に入っていない方も結構いるので、自治会単位で防災訓練をやるのではなく、市役所を中心として、子育て中の若い方も気軽に参加できるようなことを行ってほしい。

市民：災害は地震ばかりではなく、川の氾濫や富士山の噴火もある。拠点である庁舎だけではなく、市民が生活している行政区域全体について見るところを作っておかないと、庁舎が駄目になったら府中市全体がコケる。

庁舎の計画に則り井戸を掘るとするのは良いが、地域で水が必要になった場合、水を汲みに庁舎まで行って持って帰らなければいけない。地域に井戸が必要であるとすれば、所々に置いたほうが良いが、一斉にやる必要はなく、財政を考慮しながら行うべきである。

決して無理な建替えはやってほしくない。事業費がオーバーするようであれば、述べ床面積を調整してほしい。市民は専門家ではないので、行財政改革担当が長期的に考えてもらわないといけない。総務省統計局はお金の動きを持っており、府中と密接に関わる。

市民：オープンスペースについて、先ほど示されたものは何も反対することではなく、ぜひそういうものにしてほしい。空間の造られ方が重要だと思う。あれはやってはいけないという管理姿勢をなくせば、楽に使ってくれる。こういうことができるように考えました、ああいうことができるように考えましたというような、積極的な広報が必要ではないか。そういう試行例

を作ってほしい。

また、あえて分散化させている町もたくさんある。それは市庁舎とか町役場をつくるきをきっかけとして、町をどうするか考えたときに、あえて町を一つにまとめないで分散させ、人が動くことによって町を活性化させようとする市長もいるので、庁舎を作ることによって我々は何か変わるのかというところが見えてこない。

基本計画を見ても他と同じであると思っているが、設計者選定において与条件をどうするかについて、市民にとっては一番重要になる。色々な意見があるなかで、それを一つにすることは難しいかもしれないが、今回の177億円の事業をやることによって府中はどのようにしているのか。第二庁舎のようにあんな立派なものがあるのだから、ある部署は第二庁舎にある方がよいという検討をしているのか分からないが、それを含めて考えてほしい。そういうことを含めて市をもっとこうしていくというものが見えてこない。今後の中でぜひ戻れるものは戻ってほしいし、積極的に考えるものは積極的に考えてほしい。

敷地の話はオープンスペースと同じで、どんなものを作るかだけでなく、使い方や作るプロセスが府中らしさということはある。外観やデザインだけでなく、こういうことも含めて今後求めていくべきことだと思う。5%ということだが、それを含めて進めるのかどうか良く分からないが、5%が駄目だったらどうなるのかという意見があり、駄目だったときには成り立つような計画で進めるなど、ここでは言えないのかも分からないが、道路の付け替えができる状況になっているのか、知らされている情報ではその辺が分からない。そこも重要だと思う。

5%により、敷地の真ん中がないのか、端がないのか、あるいは今の道路はそれがなくても整備できるのかということが全く分からない。近くに住んでいる方は分かっているかもしれないが、重要なことが知らされないまま事業が進められることは理解できない。あなた達はもう分かっているが、我々はわからない。上手くやってくれるのが行政マンだとすれば、それでも良いかと思う。

市：プライバシーの話もあるので、ここで明らかにする話ではないが、もちろん人の土地に絵を描くということがないような形で進めていきたい。

市民：その5%があれば、もっとこんな素晴らしい考え方があったが、その5%のためにこんな制約がついたとなれば、市民にとってはものすごく損失になる。50年100年かけて5%以上の損失になる。8階や10階建てなどの議論以上に、ものすごい制約がつく。

市民：広報特別号第1号を見ながら市役所の回りを一周してみたが、こんなに

広い市役所を造るのかと思った。なんで金がないと言っている府中は人の土地まで買って広げるのか、今日歩いて驚いた。借金に相応しい役所を作りたいということと、この市役所ができたときに、朝日町や多磨町の人達がどんな便利になるのか考えた。国府や大国魂神社などがあるが、けやき並木を中心にやっているのではと思ってしまう。25万市民のためにどうするかというところが全然見えてこない。直接庁舎と結びつかないかもしれないが、25万都市をどうつくっていくのかというのは、もっと市民に話してほしい。

市民：その中の一つとして、庁舎をこういう風にするという形にしてほしい。

市民：関連部署がたくさんあり大変だと思う。

市：いただいたご意見は共有してやっていきたい。

市民：スクリーンに映す文章はもう少し正確に意図を書くべきだと思う。

市民：言っている意図と違うのではないかと思うところが結構あった。私が言っていることも違うなと思っている。上層部や市長に説明する際には、こういう意見があったということを確認に伝えるべきだと思う。

市民：自分も第1回目の説明会の議事録を見たが、こんな意見あったかなというものもあるので、正確に伝えるようにしてほしい。

市：本日はこのような形で行っているが、議事録にする際にはより正確なものを作成する。普段こういうことをやらないが、これをやったことで今のようなご意見をいただいて改善できると思うので、前向きに考えていきたい。

市民：自分の質問でまだ答えてもらっていないものはあるか。

市：与条件については、基本計画を策定する前までに。設計に繋がるような意見を多くいただいているので、その意見を参考に設計者を選ぶ条件をつくっていききたいと考えている。

市民：市民も参加できるのか。今後の設計を進めるに当たって、他の自治体で行っているようなワークショップなどはやっていくのか。

市：なんらかの形でそういったものを取り入れたいと思っている。

【生涯学習センター】

市民：建物の基本的な骨格は一度造れば変えられないと思うが、内部の配置は必要に応じて変更できる手法にすべきだと思う。取り壊すとかではなく、間仕切りをするなどフレキシブルに変更可能な要素を多く入れて設計してほしい。状況が変わって対応することが出てきたときに、ゼロからやらなければいけなくなると困るので、内部の構造は出来るだけフレキシビリティを持たせるべきだと思う。

市：社会情勢の変化などこれから大きく変わっていくこともあると思うので、しっかり検討していきたい。

市民：府中らしさを感じる場として大国魂神社に近いことばかりが出ているが、市民はもう分かっている。そうではなく、例えば、押立地区や浅間町地区など、地域で行っていることや特徴などを知らせ、地域交流がしやすいコーナーを設けてほしい。全部の町が難しければ、北部・南部コーナーなどにして、色々情報発信できれば府中全体が活性化していくと思う。

市：府中全体を周知することができるわけか。

市民：大国魂神社やけやき並木などが府中らしいということはもう十分に分かっているのだから、地域の人達が交流して、あの地域行ってみたいという風にならないと、そこで営んでいる方々もなかなかやっていけない。庁舎が地域らしさを発信しないと、どうしても中央集中になってしまうので、庁舎が積極的に地域に目を向けてくださいとしてほしい。

市民：オープンスペースの図面で、灰色の部分が建物で、斜線の部分は建物ではないのか。真ん中の白いところはなにか。

市：そうである。真ん中の白いところは空間のイメージを示しているが、これに決まったわけではない。

市民：斜線のオープンスペースというのは、なにか固定されたものではなく、その都度変わってくるものなのか。イメージがあまり湧かない。先ほどの事例では庁舎内のものもあった。

市：例えば現在の東庁舎に入った少し空いているところを大きい吹き抜けスペースにして、土日等にイベントをできるようにするなどのイメージである。

市民：府中としては建物の外に作るということか。

市：中でもオープンスペースを作ることも考えられる。ご意見を参考にし、今後どうしていくかというのを設計者と考えていく。

市民：基本計画には載っていないのか。

市：具体的には載っていない。オープンスペースは今言ったような形として検討していきたい。例えば、通常は駐車場として使っているが、非常時にはオープンスペースとして使うことなども考えられる。

市民：府中はやはり祭りがあるので、祭りの時のことも考えておかなければならない。外部から色々呼ぶことや、トイレなども必要になってくる。お祭りのときは駐輪するのも大変であるので、そこも考えてほしい。

【府中市役所】(聴覚障害者向け)

市民：オープンスペースと何か。具体的なイメージが湧かない。屋根などはあ

るのか。

市：基本構想を策定したあとに検討した内容では、整形の敷地の中に真ん中に吹き抜けがある建物の形を想定していたが、これに決まったわけではない。敷地内に建物の西と東にスペースが空くと考えており、こういうスペースを活用することについてどういう方法が考えられるかご意見をいただきたい。屋根の有無についても決まっていないので、ご意見をいただければと思う。

また、オープンスペースとしては、敷地内の駐車場や駐輪場を除いた場所で考えている。

市民：子どもが遊べるような場所は求められると思うので、公園とか遊具があると良い。

市民：狂犬病の注射の場所も設けてほしい。市役所に来たついでに用を済ませることができると思う。

市民：町田市役所にある吹き抜け空間は素敵だと思った。会社やデパートにあるイメージだが、市役所で誰でも見ることができるとなると、会社帰りの人がたくさん集まってくる時にケガなどが想像できる。町田市役所の場合でもケガとかが起きた事例はあるか。

市：町田市役所でケガのことについては聞いたことはない。今後機会があったら、確認してみたいと思う。

市民：安全性に問題があるように感じる。

市：町田市役所のイベントは毎日やっているわけではないので、その都度気をつけてやることも可能かと思う。

市民：建物が各階塞がっているのではなく、吹き抜けの空間があって上が見通せるのは良いが、市役所には子どもや知的障害者など色々な人が来るので、上から何か物落としたりなどしてケガしたりすることが怖いと思う。

市：町田市役所のように市民の方が活動する場の提供としてスペースを設計し、お茶会に限らず、皆さんがこう使いたいということがあれば使えるような形を考えていくことになると思う。

市民：オープンスペースは時間は決まっているか。役所の開庁時間と同じか。

市：時間は決まっているようだが、具体的な時間は把握していない。セキュリティさえしっかりしていれば、土日も開放できる形も考えられる。

また、府中らしさを感じる場についても設計で具体化していきたい。府中らしさはこういうもの、こういうスペースだというものがあればお願いしたい。

市民：競馬があると思う。

市民：太鼓のグループがいっぱいある。武蔵国府太鼓もある。

市民：くらやみ祭とか色々あると思う。

市：市役所のオープンスペースでそれらをどのように行うか、ご意見があればお願いしたい。

市民：太鼓演奏やお囃子の披露などがあると思う。

市民：福祉まつりが府中公園で行われているが、市役所の中などオープンスペースで福祉まつりを行えば良いと思う。オープンスペースに椅子を出して座ることもでき、雨が降っても大丈夫である。

市民：オープンスペースは車椅子なども使うと思うので、段差がないようにフラットな方法を考えてほしい。また、雨で滑らないような工夫をしてほしい。バリアフリーにしてほしい。

市：建替えた場合には、ユニバーサルデザインに配慮した形の建物になるかと思う。

市民：スクリーンを下げてミニシアターになる機能もあると良い。普段は明るい、使うときには調整できるような機能をつけてほしい。例えば、クラシックの演奏会やクリスマスするときなどに使えるように用意してほしい。

市：色んなことに対応できるようにということか。

市民：ボタンで明るくできたり、暗くできたりする仕組みがあると良い。

エ その他

【女性センター】

市民：災害時に地区FM局があったことにより情報収集ができたという事例もあるので、庁舎の中にそういう機能を持たせてほしい。

市：参考にさせていただく。

市民：防災行政無線では伝わらないこともあるので、市民に身近なもので情報伝達できる手法をとってほしい。

【府中市役所】

各テーマの中に含む

【生涯学習センター】

市民：平成26年度から始動している総合計画には安心安全など色々書いてあり、政策課が管轄で学識経験者からの意見も多いと思うが、それを実行する部署がないので作ってほしい。理念だけでは前へ進まない。

市民：新庁舎では、環境配慮や太陽光パネルなどのそういう考えはあるか。

市：環境に配慮した庁舎や持続可能な庁舎は求められているところだと思うので、設計で具体的に反映していく。決まったことについては、途中の段階でも可能な範囲で周知していきたいと思う。

市民：市庁舎に行くと、職員とパートの区別がつかない。一般の人とも区別をするために職員は制服をちゃんと着てほしい。着用できないなら腕章などでも良く、今すぐ実行できることだと思う。

市：今できることとして関係課には共有していきたい。

市民：昨日と一昨日の説明会はどれくらい参加しているのか。

市：昨日は23名、一昨日は12名である。

市民：1月と合わせても100人いかないのか。次回お会いできることを楽しみにしている。これ一回でもう終わったということにしないでほしい。市庁舎だけでなく南口再開発などについてももっとオープンにしてほしい。南口再開発でどんなものができるのか皆知らない。オープンにするとがたがた言う人が多いので分かるが、それだと何もできない。

市民：オープンにする一つのやり方で、インターネットだけではなく、有線放送を使って色んな案内をするなどすべきである。

市民：インターネットはだめである。

市民：有線放送など声で知らせないと市民はなかなか頭に入らないので、ぜひ考えてほしい。今すぐにできることである。

市民：25万人いて、そのうちの100人しか出ていないのでお願いしたい。

【府中市役所】(聴覚障害者向け)

市民：ドクターヘリのヘリポートをつくってはどうか。緊急のときにあれば良いと思う。

市：災害時の対応ということだと思ふ。

市民：建物の高さはどれくらいになるのか。

市：7階建てに決まっているわけではないが、周辺の環境を見て決めていきたいと思ふ。

市民：土地の買収とあったが、今の庁舎の周りを買収するということか。交渉はどれくらい進んでいるのか。

市：そのとおりである。庁舎の敷地が道路に囲まれた敷地にしたいと考えており、成型を目指して現在買収の交渉を進めている。この場所で建替えることを考えている。交渉については、成型の形を100%とすると95%は話は済んでいる。

市民：現在庁舎内にはJ-COMの撮影スタジオがあると思ふが、撮影中というのをはっきり出してほしい。また、市長コラムのメールの内容や、J-COMを見れない人のために、同じ内容を市役所の中で放映してほしい。

市：役所のモニターの空いている時間を使って、まるごと府中を放映するという形か。

市民：そうである。

市民：エレベーターが一度上に行くとなかなか下に降りてこない。来たとしても人がたくさんで乗れないことも多いので、エスカレーターもあるといい。大きいものではなくて良いので、一人くらいがすれ違える大きさのものを造ってほしい。

市：他の庁舎の事例を見ると、エスカレーターはあまり設置されていないように見られる。理由としては事故のこともあるかもしれない。現在の府中市役所のエレベーターは小さく担架も運べない状況で、数も少ないため、数を充実させることは考えられる。

市民：エレベーターには速さがいろいろあり、遅い場合は待ち時間があると思ふが、ゆっくり、ふつう、高速など何種類か考えてほしい。

市民：数ももう少し増やしてほしい。

市：建物の高さや広さ、階数などによってエレベーターの役割が決まってくることになると思ふので、1台の速さも考慮しながら、皆さんが使いやすいような形の庁舎、設計を進めていければと思ふ。

市民：市役所への連絡方法について、以前はFAX、最近はメールで問い合わせることが多いが、各課ではなく、ヘルプデスクのようにまとめてひとつの代表窓口にお問い合わせできるような仕組みになればとても嬉しい。

市：新庁舎ではなくても、今でもできることかもしれないので、関連部署に相談してみたいと思う。

市民：各部署に連絡するのはなかなか大変で、時間がかかってしまう。各部署のメールアドレスを探すのではなく、代表メールアドレスにメールすれば取り扱ってくれるような仕組みになってほしい。

市民：現在LINEが流行しているが、市役所と連絡する聴覚障害者専用のLINEを設けてほしい。だれでもが入れるものではなく、登録制のものが良い。

市民：ビデオチャットのように文字だけではなく、映像でやりとりができるようになると良い。

市：新しい庁舎でなくても、運用のなかで考えられることだと思うので、関連部署には相談してみたいと思う。

市民：今日聞こえない方々の意見・要望のために2回目の会議を開催してくれてありがとうございます。私達聴覚障害者にとって、会って話をする、実際に会って話をするという場が必要である。横にいるとお互いに手話が見にくいので、目を見て話ができるように机、椅子も丸く配置されているような部屋を考慮してほしい。お互いの手話が見れるようにしてほしい。

市：こういう風に皆さんと市の職員とが目と目を見てお話できるような場は今後もつくっていきたいと思うので、また参加してもらえればと思う。

オ 新庁舎における改善点について

【府中市役所】(視覚障害者向け)

市民：市役所に1人で行くが、窓口に行くまでが大変である。神社側の入口から障害者福祉課が一番遠いところにあるので、全然知らない方、職員ではない方に声をかけられることが多い。どこの玄関でも声をかけてくれる方がいるとありがたい。

市：東側と西側にはそれぞれ案内人もいるが、遠い配置になってしまっている。建物の規模が決まったときに入口の位置を決めて、案内人や福祉系の部署の位置などを色々考えて、皆さんのご意見を踏まえながら造っていきたい。また、造るに当たっても事前にご相談をさせていただくような機会を設ければと思う。

市民：東村山市の公共施設では、入口の下に行くと、「ここは東村山市役所です」など建物の名称を音声で喋る。あるととても助かると思う

市民：入口が複数あれば、入口名を言うなどもある。

市民：実際にやっているところがあるので、各施設で対応可能だと思う。

市：大変参考になる。

市民：シグナルエイドを持っていなくても反応するのか。

市民：人が通れば反応する。障害者ではなくても一般の人でも反応する。

市：シグナルエイドとは何か。

市民：信号のときなどに使用する機械で、音がピーっと鳴って赤や青を区別することができる。

市民：ずっと鳴りっぱなしだと迷惑がかかるので、スイッチを押したときにだけ反応する仕組みである。

市：青梅市役所は常に反応するものがあるらしいが、そういうものはあるのか。

市民：あるが、反応する専用の杖を持っていないといけない。

市民：役所で貸出すことになっているが、役所でそれに持ち替えなければいけなくなる。人によって長さや重さなど感じ方が違う。

市民：人の出入りが激しいところでは、反応して常に喋っていることになってしまう。間隔を置いてなど、シグナルレードで対応するなどの方法がある。

市民：この前施設に行ったら送信しても反応しなかった。聞いてみたら、電源を切っていた。電源切らないようにしてほしい。

市：ありがとうございます。色々教えていただければと思うので、よろしく願いしたい。

市民：先ほどフロアが広々して使いやすいフロアにしたいという話があったが、視覚障害者にとっては、広々としていることが必ずしも使いやすいこ

とは繋がらない。例えば、府中市には、車椅子の方や赤ちゃん連れの方でも中が広々として使いやすい、誰でもトイレというものがあるが、私達には広すぎて中に入ったらどの方向に便器や手洗いがあるのか分からず、中に入ってずっと触って回らないと分からないのでとても困るという人がいる。そのため、必ずしも広ければ広い分だけ使いやすいということは、視覚障害者には当てはまらない。トイレの中にも便器のところへ直接行けるような誘導ブロックを敷いてもらうなどの配慮をしてもらえれば、今以上に誰でも使いやすいトイレに近づくとと思う。

市：トイレの中の配置が触って分かるような配置図をトイレの前に掲示しているのをよく見かけるが、それだと足りないか。

市民：トイレは、トイレに行きたいから一生懸命行くと思うが、入口で止まって配置図を見てから入るということはあまりなく、時間が有るときにたまたま配置図を見るケースのほうが多いのではないかなと思う。

市民：目で見れば一回で配置図が目には焼きついて覚えられると思う。私達は大体人差し指1本で触り、まずは全体の形を見る。それから、例えば、1という数字が便器、2という数字が手洗い、3という数字がベビーベッドなどをいちいち見て、その後改めて1はどこにあるかを探すことになるのでかなり時間がかかる。トイレに行きたくて場所を探し、見つけた頃にはだいぶもう時間が経っている。

市民：余裕がない。

市民：誘導ブロックを敷くことや外で音を出すなどの方法が良い。図面は見える人には便利だと思うが、指で触る人にはあまり効率的ではない。

市民：3Dプリンターができて、自分らにはとてもありがたいと思っている。例えば今回の資料に関しては、場所を言葉で表すのは大変なので、3Dプリンターを使って提示してもらえれば良いなと思う。

市民：それに関連して提案があり、今日サンプルを持ってきたが、皆さんにも体験してほしい。

これは、立体コピーというものを使い、府中駅周辺を表したものだが、厚画用紙にコピーして紫外線などを当てることで、印字された部分が盛り上がるというものである。新潟大学で研究している先生にリクエストしてつくってもらった。

図面をつくることも可能で、作り方としては、大学で地図をスキャンして、必要な線をトレースし、文字を打ち込む際に点字化している。

今皆さんが触ってもほとんど分からないと思う。基本的には見える人が、今触っているところがけやき並木とか府中駅、けやき並木と甲州街道の交差点あたりなどが分かるような形である。来週また視覚障害者の集ま

りがあるので、色々意見を聞いてみたい。こういうものを改良しながらリクエストしていけば分かりやすいものができると思う。

市：改良していくということで、完全にこれだったら皆さんが全員分かるものはなかなか難しいと思うが、皆さんでこれだったら良いのではというものを考えていただいて、またそれを私達にも伝えていただいて、私達もできることを一緒に考えていき、実現できればと思う。

市民：この原図を市役所の構造を分かっている人が作れば、色々改良しやすい。ぜひとも考えて頂きたい。

市：また色々な情報を教えていただきたい。今後設計を進めるなかで事前に色々こちらからお伝えする機会があるかと思うが、そこで用意するものが紙や画面であると意味がないと思うので、分かりやすいものがどういうものなのかを市役所でも考えていきたいと思う。ユニバーサルデザインとして、皆さん公平で分かりやすい情報ということにも繋がってくると思うので、一緒に考えていければと思う。

市民：エレベーターのボタンでタッチパネルのものがあるが、我々は指で何が触って確かめた際に、スイッチがオンになってしまう。ある程度ぐっと押せばスイッチが入るものであればいいが、少し触っただけでスイッチが入るとなると、何階かを探しているうちに全部ついてしまって、各階に止まることになってしまう。この辺を考慮してほしい。

市：これから勉強させていただきたい。

市民：先ほど段差という話があったが、やはり段差がないほうが歩きやすい。くるるには、1つの通路で3ヶ所くらい段差が所があり、端っことは車椅子や自転車が通れるようにスロープになっているが、何回か足を踏み外したことがあり、骨折しそうになった。そこには点字ブロックもなく、床も同じ色である。

また、府中駅の近くには下り階段があるが、曲がって2段降りて、また3段降りてという形になっており、すごく危ないので、折り返しが一回なら一回の階段にするようにしてほしい。段差が細かく切れ目で分かれているのは危ないので、できるだけ避けてもらいたいと思った。

市民：市役所の記帳する台には拡大読書機があるか。ルーペではなく、書類を置くと画面に出て、そこで書くこともできるものである。

市：おそらないかと思う。確認をしてみたいと思う。

市民：自分はもうほとんど見えないが、以前弱視だった時に行っていた市役所では、とても見にくいところで書くことがほとんどだったので、自分が言ったからかどうか分からないが、拡大読書機を設置してもらった。ただ、福祉課に拡大読書機が一台あり、使用した場合に後ろが通路になっていた

ため、拡大された文字が後ろから見えてしまう状況だった。例えば銀行などでもバリアフリーの記帳台が作られたという事例があると思うが、なかなか拡大読書機まではないと思うので、弱者向けの記帳机はプライバシーを保てるスペースで設置されると良いなと思う。

市：プライバシーの配慮に関しては皆さんからご意見をいただいているところなので、拡大読書機が今設置されているのかも含めて、確認や検討をしていきたい。

市民：役所の問題で、毎年4月になると人事異動があるが、せっかく話合って実施するとなったことが後継者に伝わらないことがよくある。都庁でもそうだが、そうならないようにしてほしい。一回変わってしまうとまた、始めから説明しなければならなくなる。

市：耳の痛い話だが、今回の記録もしっかり留めさせていただいて、ホームページに載せるなどして一般の方にも見ていただく形を取りたいと思うので、引き継いで設計を進めていければと思う。

市民：ホームページに掲示するデータは、PDFファイルではなく、テキストファイルの方が良い。PDFだと文字の配列が色々な向きになっていると、文字を読み上げるソフトが上手く読み取らない。基本的には1行ずつ上から読んでいくソフトなので、横に他の文字が入っていると、それも読み上げてしまい何を言っているのか分からなくなる。皆さん目の見えない人は、スクリーンリーダーという読み上げソフトを入れたパソコンを使用している。

市：それに対応できるようなものがテキストファイルということか。

市民：あとはワードで作って段組や枠組を作らずに、普通に横書きの文書をPDF変換していれば読み上げはできる。パンフレットなどのPDF形式だと読み取れない。

市：市が作った資料はテキストファイルにして、例えばホームページに掲示していれば、それを選んでいただき、読み上げソフトで確認することができるということか。

市民：ホームページの本文として入っていると良いかなと思う。

市：どういう形になるのか今整理できていないので、少し庁内でも検討してみたいと思う。

市民：これからどんどんホームページの活用が増えてくると思う。一般の社会ではホームページを見るのはテレビと同じように簡単に見えると思うが、我々はなかなか読めない状態なので、ますます情報量が普通に見える人と我々との間で格差が広がっている。世の中が便利になればなるほど、視覚障害者にとっては、それだけ不便で格差が大きくなってしまうので、その

辺をなるべく早く対応してほしい。

市：新庁舎ではなくてもできることについては、現在の庁舎の中でも共有していきたい。

市民：多摩地区の広報紙をまとめて電子書籍化してホームページで閲覧できるサイトが今年立ち上がった。皆さん読めたか。

市民：電子書籍化だとPDFはほとんど読み取れなかった。

市民：広報のPDFなどは読めない。

市：関連部署と色々相談してみたいと思う。その際に色々分からないことがあれば、市役所の方から皆さんにお聞きしたいということもあるかと思うが、その際がまたご協力をお願いしたい。

市民：ホームページについては広報課にもお願いして、広報課の職員に対して、この前何人かでパソコンを持ち込んでデモンストレーションを行ったりもしているので、また各課の間で検討していただけるかと思う。

市民：阪神淡路大震災の時の経験だが、私の仲間の人達が避難所に行った際に、食事や水の配給について全部掲示物で出たということがあったため、もらえるものがもらえなかったり、配給されるものが食べられなかったり、トイレにも行けなかったりすることが、市役所側に伝わらないために結構起きているようである。避難所については、障害者がまとまって避難できる場所があると良いと思う。

市民：自分もそのことで個人的な意見だが、先ほど市役所の中に災害時には避難所としても使える機能をということ saying していたと思うが。

市：避難所としては機能しないが、災害時の情報発信や、災害対策本部の設置する機能としては必要になると思う。

市民：視覚障害者の人達に聞いたことがあるが、災害時のときに避難所に避難するかと聞いたら、多くの人達が避難所には行きたくないと言っていた。避難所に何十人と集まる人のうち視覚障害者が1～2名とかだと、どうしても見える人が中心になってしまう。そのため、普段から食糧や水を備蓄し、家が潰れない限り避難所には行かないという方が多かった。耐震性に優れたスペースを十分に取れる新庁舎を作るのであれば、視覚障害者は市役所の一定のスペースに集めていただき、ある程度職員も手厚く対応していただいたほうがより効率的で、視覚障害者も比較的安心して避難生活ができるのかなと思う。

市：皆さんへの対応も図れる避難所の機能や対応については、本来であれば、おそらく身近な地域の近くにあるのが一番良いのかと思う。皆さんここに来るのも大変だと思うので、身近なところでそういう対応が図られれば良いと思うが、なかなかその辺りが今防災の方とも連携を図れていない

ところもあるかと思う。

市民：地域の自治会に参加することができていない障害者が多いと思う。ほんとはやらなければいけないと思うが、障害者はなににもできない。芝刈りも何もできないので、孤立してしまっている人が多い。

市民：来てすぐ帰る場合だと近いところが良いと思うが、ある程度寝泊りや何日間かそこで過ごすような場合だと、多少遠くてもそこに辿り着けばある程度安全が確保されるという意味では、必ずしも近いところにこだわる必要はないのではないかと思う。

市：自分達でどうするのか、公共がどうしていくのか、あとは地域がどうしていくのかというところが、この防災の計画のポイントだと思う。今ご意見をいただき、そういうことをもう一度見直す機会としてもあるのかなと思った。

市民：市は、なるべく近所づきあいを厚くして、非常時には皆さんで助け合うようにしてくださいというが、なかなか障害者が地域の活動に溶け込むことは、実際にはできている方のほうが少ないと思う。

市民：役員やってくださいと言われても、何ができるかというか、何したら良いか分からない。例えば、町内会でハロウィンなどのイベントを行う際でも、何ができるか聞いても、なかなか答えられない。

市民：やっぱり対等には入れないという感じがする。

市民：PTAも同じで、やる気はあってもなかなか入りづらい。

市：今回新庁舎に関する話だが、新しい庁舎になる以前の問題もあるかと思うので、関連部署と共有していきたい。できることを少しずつやればと思う。

新しい庁舎で、避難計画や誘導計画の他の庁舎の事例として、1人ではなかなか移動することができないという方については、予め各フロアのこの場所に集まるということを事前に共有するようにしていた。必ず職員が行き、車椅子の方を介助して避難するように取組んでいる新庁舎を見たことがあるので、そういう運用も考えられると思う。また、避難所の件については、関連部署と打合せをしていきたいと思う。

新しい庁舎の誘導計画や避難計画については、また新庁舎の計画が定まりつつあるときには、ご相談の機会を設けさせていただくこともあるかと思うので、ご協力をお願いしたい。

市民：ぜひ設計する会社が決まったら、一度設計する現場の方にもお話も聞いていただきたい。可能な範囲で構わないので、そういう機会を設けてもらえればと思う。

市：前向きに検討させてもらえればと思う。視覚障害者の方同士ではどのよ

うに連絡を取るのか。今回の場合はどのようにしたのか。

市民：電話とメールリストを使った。加入者は少ないが、府中市に住んでいる視覚障害者のメールリストを立ち上げているので、そこに流した。あとは、出てもらえそうな人にしらみつぶしに電話をかけ、こういうものがあるけどどうかという案内をした。